

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0371200387
法人名	株式会社 江 陽
事業所名	グループホーム 花の家
所在地	岩手県奥州市江刺区田原字大日195-1 (電 話) 0197-31-2150

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19-1-3F		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	1月10日

【情報提供票より】(平成19年9月7日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	2,100 円
敷 金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(9月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.9 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ひらた外科内科クリニック・関根歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ディサービスと併設されており、行き来も通路で気軽に出ており、ディサービスに設置されている機能訓練用の器機の利用も出来る環境にある。近隣には、交番や民家、保育所などもあり、地域交流は図りやすい立地状況もある。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の自己評価・外部評価を受けて改善等が必要な部分は、創意工夫して取り組みを行っている。ユニットの主任を中心に業務日誌や管理日誌を利用し、職員全員が意思統一できるよう取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット責任者が中心となり、ミーティング等で話し合いながら取り組んでいた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年度から行われている当該会議も、18年度は事業所からの報告が主だったので、今年度(19年度)からは、こちらからテーマを出し、会議等を進めている。その中で、部落会長さんがきて指導をしてもらいながら、水木だんご作りをしたりと地域との充実した関係づくりが持てる内容となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「家族会」という組織のざっくばらんな意見などを、より出してもらえるように取り組んでいって欲しい。独自の家族アンケート実施等についても実現していくことを望む。敬老会を「家族会」との共催で行い、率直な意見交換などしていきたいという構想も早期に実現できるよう期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人クラブ等の慰問を受けたりして交流を図っている。また自治会へ加入したりし、地域密着への取組が窺えた。受け入れの状況での地域交流がメインとなっている状況があり、今後については近隣の保育所や学校に出向いての地域交流等も積極的に考えていっていただきたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念とは状況に応じて変わるものと考えている。利用者・入居者に合わせて皆で検討し、作成したものである。和を大切に、自然を活かし、ゆっくり、のんびりをモットーに日々のケアに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、全体のミーティングや、研修時などに理念を踏まえ、皆で共有できるように話している。いかに、職員に理念を分ってもらうかというのを考え、若いスタッフには目標を高く持つってもらうため、ケア等に関する理想を話し、高い質の構築に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブ等の慰問を受けたりして交流を図っている。また自治会へ加入したりし、地域密着への取組が窺えた。	○	受け入れの状況での地域交流がメインとなってしまっている状況があり、今後については近隣の保育所や学校に向いての地域交流等も積極的に考えていきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価・外部評価を受けて改善等が必要な部分は、創意工夫して取り組みを行っている。ユニットの主任を中心に業務日誌や管理日誌を利用し、職員全員が意思統一できるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度から行われている当該会議も、18年度は事業所からの報告が主だったので、今年度(19年度)からは、こちらからテーマを出し、会議等を進めている。その中で、部落会長さんがきて指導をしてもらいながら、水木だんご作りをしたりと地域との充実した関係づくりが持てる内容となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当該事業所担当の市職員は包括支援センター業務も兼任しており、施設運営等に関することから、ケースの個別対応等の相談まで多岐に渡り、対応してくれる窓口となっており、連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現金については、「預かり金規定」を策定し、基本的に1万円程度の現金をあずかり、利用者の小遣い対応している。また、利用者の「近況報告」を担当職員が書面にてお知らせし、生活の様子、レクの参加状況、連絡事項を伝えている。これらの報告は毎月1回請求書送付時に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設置されており、家族からの意見の汲み上げの環境は整えられている。	○	「家族会」という組織のざっくばらんな意見などを、より出してもらえるように取り組んでいって欲しい。独自の家族アンケート実施等についても実現していくことを望む。敬老会を「家族会」との共催で行い、率直な意見交換などしていきたいという構想も早期に実現できるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職による人の動きによるダメージは充分留意している。1ヶ月前には退職についても申し出するため、利用者の混乱等がないように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム定例会や研修等には、多くの職員をそれぞれ参加させている。学ぶ機会を平等に設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロックごとの定例会へは職員が交代で、東北大会等へは管理者が代表で参加している。グループホーム協会においてブロック内で交換研修等を行う仕組みが出来ており、本事業所はその「受け入れ可能施設」としており、積極的に協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、利用者ご本人や家族の方との面接を行い、納得してからの利用開始としている。	○	面接に利用者宅へ出向いたり、認知症通所介護サービス(現在定員3名)を活用してもらい、環境や人にも“よく”慣れてもらってからの利用が望ましいと考える。今後は認知症通所介護サービスの定員を増やし、より地域との多くの接点や馴染みながらのサービス利用を目指して行って欲しい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「楽しく、そして喜んでもらいたい」という気持ちで利用者と向き合っている。利用者との色々な対話の中で、様々な人生観と出会い、日々学ばせてもらっている。利用者の気持ちに否定的なことは言わないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人並びに家族の希望をしっかり聞くことを重視している。解決すべき課題を見出し、その課題に対する活動チェック表をつけて本人の日々の様々な行動から思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を取り巻く人々からの意見や都度の状況等について聞き取り、それを活かして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェック表等を参考にしながら、6ヶ月に1回の介護計画の見直し・更新等を行っている。	○	医師などからの助言や指示についても介護計画書に記載するなど、チームで「現状に即した介護計画」を作成していくことが望まれる。現状把握の内容を、集約して次のケアプランに活かして欲しい。そのためのケアカンファレンスを充実して行って欲しいと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医にホームドクター的になってもらい、受診支援等行っている。協力医のひらた医院以外にも近隣の医療機関には緊急時の対応を行ってもらっている。また、認知症ディサービスも行っており、多機能な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の了承を得て当該事業所の協力医をかかりつけ医としており、受診支援も積極的に行っている。また個別のかかりつけ受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期は、出来るなら利用者本人の家で迎えるのが一番いいと管理者は考えている。しかし、なかなか難しい現状があるのも事実であり、事業所としては現段階では往診ドクターの確保が優先課題と考えている。	○	看取りに関して協力医療機関の確保(往診ドクター)がまず第一の課題となっている。今後、発生しうる状況を想定し、方針の職員全体での共有、課題改善のための勉強会や、話し合いを行っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについては同意書により、ご家族等から同意を得て使用している。羞恥心への配慮は、入浴・排泄等において、介助者の同性介助や男女別の入浴時の配慮を行っている。	○	羞恥心等への配慮についてトラブルなく対応されているが、今後統一された接遇マニュアルなどを用意し、それをもとに学習会を行うなど意識統一を定期的に図り、常に利用者個々のプライバシー保護を考える仕組みづくりを望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の思い思いの生活を大切にしている。職員の都合(研修参加等)で、利用者の思い(やりたいこと等)に対応出来ない場合もあることを職員自身振り返り、なるべく利用者に合わせていこうという前向きな姿勢でケアに当たっていることが感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で野菜を栽培し、殆どの野菜が採れ、季節の旬の野菜を食べることが出来る。準備や片付けも女性利用者ばかりではなく、男性の利用者も手伝って和気あいあいとしている。卵料理で目玉焼きが苦手な方には、卵焼きにするなど細かな配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉を入れており、利用者からも好評である。入浴支援は毎日行っており利用者の入浴希望に沿って対応している。入浴マニュアルも整備されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の草取り、農作物収穫、裁縫、料理、モップ掛け、また「炭坑節」をかけての歩行訓練など、様々な楽しみや役割をそれぞれが持ち、生き生きとやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気がよければ、皆の意見でドライブに出掛けたり、病院受診等の予定も利用者の外出希望(花を見に行きたい)により、受診予定をずらして希望に沿った外出をすることもある。また利用者の希望により選挙(期日前投票)にも出掛けたりしており、柔軟な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず過ごしている。夜勤時間帯は、防犯上、施錠している。暖かい季節の日中は、ガラス張りの共有空間の窓や扉を開放的に開けて、風通しのよい空間が保たれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回(今年は6月)、消防にも来てもらい、避難訓練を実施している。避難訓練のほか、具来的なマニュアルの整備の検討がされている。ユニット管理者が防火管理者の資格があり、中心となり今後、夜間帯想定訓練も行いたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取に関しては、併設施設に管理栄養士がおり、献立表の作成に協力を得ている。水分摂取に関してもお茶等の飲んだ回数を記録し、確認している。水分摂取の取り組みとして、夜間の排泄後に必ずお茶を飲んで貰うことと、「朝のお茶会」(5:30~6:00)を開催することで飲むことへの習慣づけがなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットとも天井が吹き抜けで、自然の光が室内を明るく感じにしている。床は、フローリング床暖房で全居室も共用スペースも暖かい。夏の暑さよりも冬の寒さのほうが弱いということでの防寒対策はよく出来ていると思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室大体7~8畳(居室の場所により若干の広さの違いあり)の広さとなっており比較的広い居室となっている。自分の大切にしているもの、好きな物を置いていたり、飾っていたりしており、個性があらわれていた。		